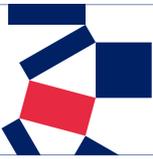


公認プログラム



はらはら、どきどき、文化がいっぱい。



東アジア 文化都市

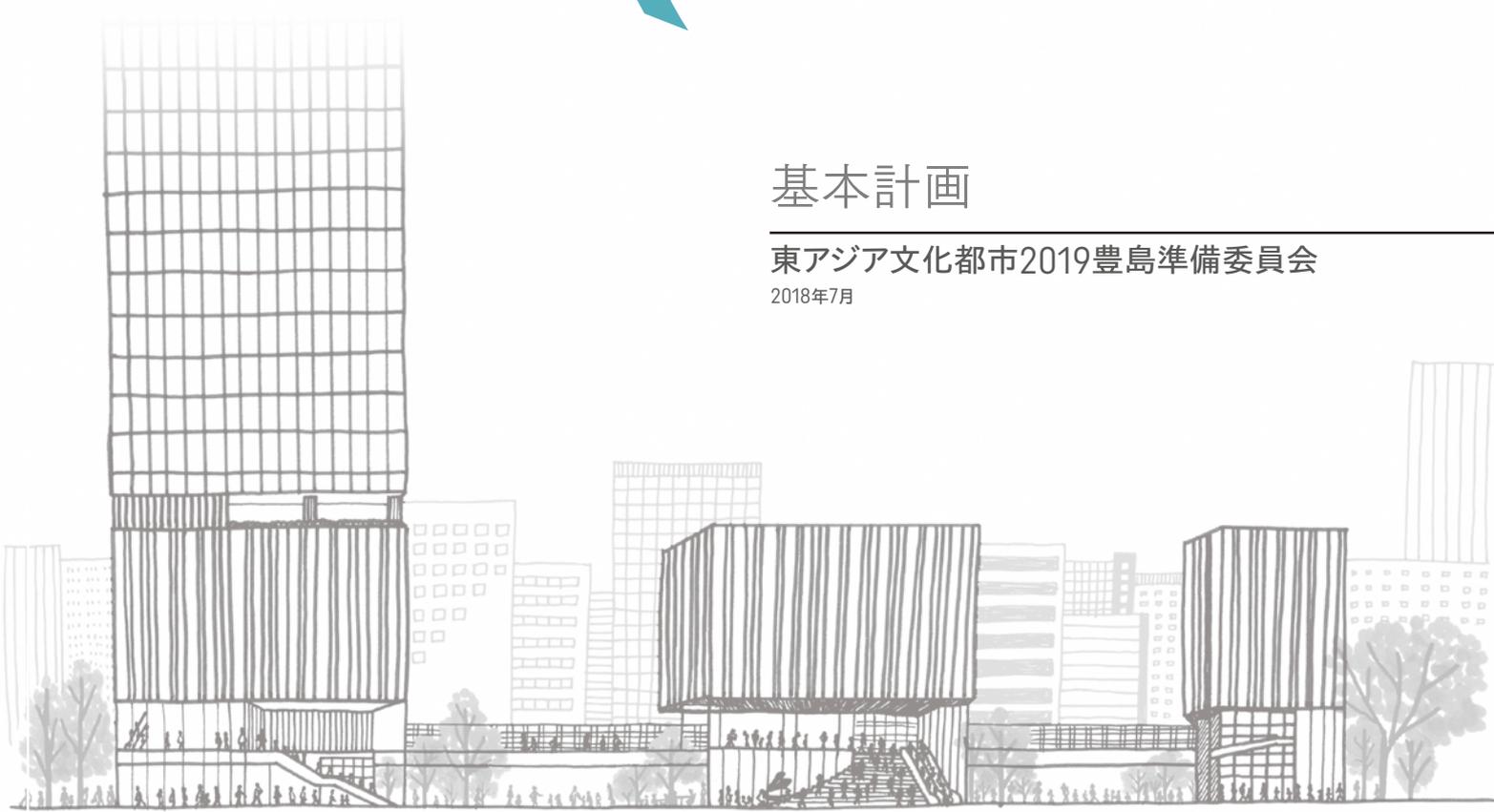
Culture City of East Asia 2019 Toshima

2019 豊島

基本計画

東アジア文化都市2019豊島準備委員会

2018年7月



目次

<p>1. 東アジア文化都市 2019 豊島 開催にあたって P2</p> <p> 委員長(豊島区長)挨拶 文化庁長官挨拶 東京都知事挨拶</p> <p>2. 文化によるまちづくりから国際都市へ P4</p> <p> 豊島区の文化政策の歩み 豊島区の文化の特徴 東アジア文化都市を通じて文化芸術の浸透を 「ひと」が主役のまちづくり 国際アート・カルチャー構想の実現に向けて 国際アート・カルチャー都市「としま」</p> <p>3. 東アジア文化都市とは P10</p> <p> 日本、中国、韓国3か国、文化による交流と発展 都市と文化が担うもの 東アジアの平和構築に貢献してノーベル平和賞を目指せ</p> <p>4. 東アジア文化都市 2019 豊島 開催記念事業 P12</p> <p> 誰もが主役になれる劇場都市のシンボル・Hareza(ハレザ)池袋 四季を通して個性あるイベントを開催・池袋駅周辺4公園 池袋の中心を回遊する環境と観光のシンボル・真っ赤な電気バス 色で表現したアート空間へ再生・WE ROAD(ウイロード) (仮称)マンガの聖地としまミュージアム・トキワ荘の再現</p> <p>5. 東アジア文化都市 2019 豊島を通して目指すもの P16</p> <p> 全体統括 挨拶 シンボルロゴ/キャッチコピー 7つの目標</p>	<p>6. 東アジア文化都市 2019 豊島 事業の構造 P20</p> <p>7. 東アジア文化都市 2019 豊島 ディレクター P22</p> <p> 総合ディレクター・事業ディレクター 舞台芸術部門/マンガ・アニメ部門/祭事・芸能部門</p> <p>8. 区民が作り上げた祝祭性にあふれた事業 P26</p> <p> 舞台芸術分野/マンガ・アニメ分野/祭事・芸能分野/音楽・アート分野</p> <p>9. 東アジア文化都市 2019 豊島 開催概要 P36</p> <p> スケジュール 開幕式典・閉幕式典 実施体制 事業予算(2018年度)</p>
--	--



豊島区の基礎データ		
歴史	1932年(昭和7年)豊島区制施行	
面積	13.01km ² (23区中18番目の広さ)	
総人口	290,024人	
昼間人口	417,146人(平成27年国勢調査)	
人口密度	220.7人/ヘクタール⇒全国で最も人口密度が高いまち。(平成30年1月1日現在)	
外国人住民	30,392人 (総人口の約10.5%)	国籍別外国人住民数
		中国 12,790人 (総人口の約4.4%) 韓国・朝鮮 2,629人 (総人口の約0.9%)

(平成30年7月5日現在)

委員長〔豊島区長〕挨拶

「オールとしま」による体制で 豊島の魅力を国内外へ発信

「東アジア文化都市」事業は文化庁が主催する文化芸術による発展と相互理解を図る国家的事業です。豊島区は、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」という「国際アート・カルチャー都市」を掲げるなかで、東アジア文化都市を開催することで国際的な発信力をさらに高めたいと考え立候補し、6番目の国内都市として選定されました。これまで日本からの代表都市に選出された、横浜、新潟、奈良、京都、金沢という錚々たる文化都市に伍して、この豊島区で「東アジア文化都市」事業を開催できますことは、これまで、区民の皆さまをはじめ関係者の皆さまと共に歩んでまいりました文化創造都市への道のりが評価されたものと、万感胸に迫るものがあります。

2019年は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、世界が東京に注目し、もっとも機運が高まっている年です。この年に「東アジア文化都市」を開催することで、豊島区の魅力を世界に向けて発信する絶好の機会と考えています。

そして、東アジア文化都市2019豊島の主役は、区民の皆さまです。多くの区民の皆さまが事業を鑑賞するだけでなく、機運を盛り上げ、さらには作り手として参加できるよう、様々な提案をお受けしていきます。区内で特に盛んに行われている「舞台芸術」「マンガ・アニメ」そして「祭事・芸能」にはディレクターを置き、魅力的な新規事業・日中韓交流事業を立ち上げます。

年間を通じて区内各所で開催されている既存の事業を充実させることで、オールとしまでの参加によって祝祭性を創出していきます。中核的な事業では、交流の視点を盛り込み、特に子どもの交流を重視していきます。区民としての中韓の方々を含めた国際交流を行い、多文化共生を推進させていきます。

また、2019年に完成する多くの施設等を「東アジア文化都市2019豊島開催記念事業」とし、未来の世代に伝えるレガシーとします。

2019年は、このまちが持つ力のすべてを集結することで、これまでに見たことのない、そしてこれからのモデルとなるような「東アジア文化都市」にしてまいります。

知恵と工夫、そして汗をかいてまいりますので、区民の皆さま並びに関係者の皆さまのご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。



東アジア文化都市2019豊島準備委員会 委員長(豊島区長)

高野之夫

文化庁長官挨拶

東アジア文化都市は、日中韓それぞれの都市が互いの持つ豊かな文化芸術を発信し、交流することで、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成が促進されることを目指しています。

豊島区には、かつて「池袋モンパルナス」と呼ばれた、芸術家たちが集い切磋琢磨しながら創作に打ち込んだアトリエ村があったように、古くから若手芸術家を育成し、文化を創造する土壌がありました。そして今、豊島区はその理念を受け継ぎ、「国際アート・カルチャー都市構想」を掲げ、文化の力で世界の人々を引き付ける「国際都市」を目指して変貌を遂げようとしております。それゆえに、東アジア文化都市事業にかける豊島区の熱意には並々ならぬものを感じ、東アジア文化都市事業を通じて、その取組の成果が、国内だけでなく、中国、韓国にも共有されていくことを期待いたします。

東アジア文化都市2019の取組みにより、東アジアの異なる文化が出会い、新たな文化が芽生え、「国際都市」豊島区の更なる発展につながっていくことを祈念いたします。



文化庁長官

宮田亮平

東京都知事挨拶

オリンピック・パラリンピックは、世界の人々の心が触れ合う文化の祭典でもあります。2020年大会は、東京が世界を魅了する文化都市へと飛躍する絶好の機会であり、豊島区が、東京芸術祭をはじめ、東京都と一体となって進めている池袋を中心とした芸術文化のまちづくりは、その実現に欠くことのできない取組みです。

ラグビーワールドカップの開催年である2019年には、新たな文化施設や拠点が池袋に整備されます。この時期に豊島区が東アジア文化都市として海外の諸都市と交流することにより、東京全体の文化都市としての発信力も飛躍的に高まり、翌年のオリンピックイヤーには東京、日本の文化的側面が世界の注目を集める大きな力となります。

豊島区による東アジア文化都市開催により、池袋を中心とする芸術文化の魅力発信が国内外に波及し、東京、日本にとっての新しい文化拠点の創出という素晴らしいオリンピックレガシーにつながるものと大いに期待しています。2020年大会に向けて、一緒に盛り上げていきましょう。



東京都知事

小池百合子

豊島区の文化政策の歩み

豊島区は区制施行70周年(2002年)を契機に文化を区の重要政策と位置付け、以来、一貫して文化を中核に据えた政策を展開してきました。また、区の文化・芸術のいっそうの振興に寄与する文化政策の指針を示すため、文化芸術分野の専門家、学識経験者、区民等からなる文化政策懇話会を設置し、2年間で度重なる審議を重ねました(懇話会8回、専門部会10回)。2002年に「文化がけん引する都市の再生」などを基本方針に掲げた「豊島区の文化政策に関する提言」を受けるとともに、2003年策定の豊島区基本構想にて「伝統・文化と新たな息吹が融合する文化の風薫るまち」を基本方針として位置づけました。その後、「文化創造都市宣言」(2005年)を行い、「文化芸術振興条例」(2006年)を定めるなか、その取り組みが評価され、「文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)」(2009年)も受けています。2013年に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催の決定後には、豊島区の文化をさらに世界に発信するべく「国際アート・カルチャー都市構想」(2015年)を策定するとともに「国際アート・カルチャー都市懇話会」を設置し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や、さらにその先を見据え、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を目指して「国際アート・カルチャー都市構想実現戦略」(2016年)を策定しています。国際化の流れを感じ取りながら、国際的な文化都市としての歩みを踏み出すなかで、東アジア文化都市を開催することは、その歩みを加速させ、「国際アート・カルチャー都市」実現に向けて大きく寄与するものとして位置づけています。

2003年 基本構想にて「伝統・文化と新たな息吹が融合する文化の風薫るまち」を基本方針に

2005年 文化創造都市宣言

2006年 文化芸術振興条例

2009年 文化庁長官表彰
(文化芸術創造都市部門)受賞

2010年 文化政策推進プラン

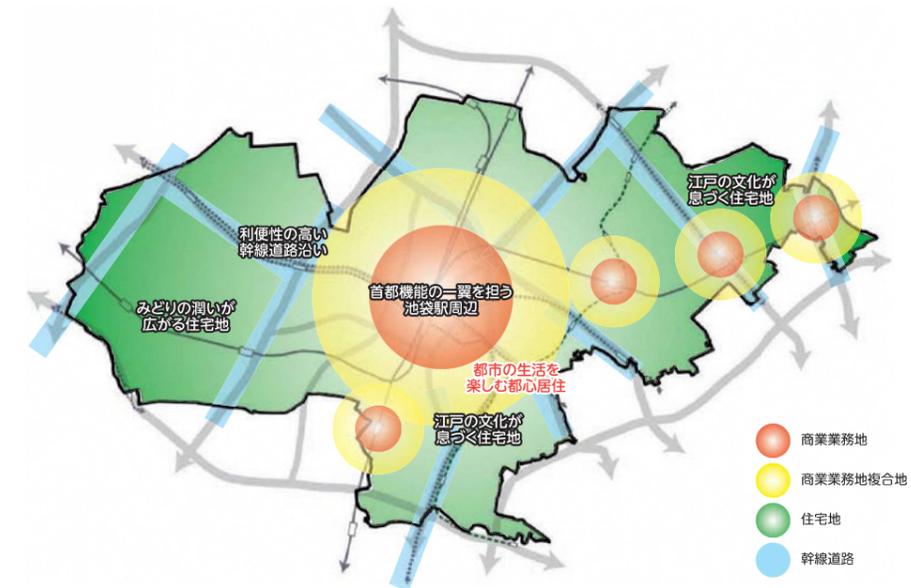
2015年 国際アート・カルチャー都市構想

2016年 国際アート・カルチャー都市構想実現戦略

豊島区の文化の特徴

◆まちの多様性

住み、働き、学び、楽しみ、憩いなど様々な個性あるまちがモザイクのように集まり、多様性にあふれる都市を形成しています。



◆人の多様性

1日250万人以上もの乗降客を数える池袋駅と副都心を中心に周囲に魅力的な住宅街が広がる利便性の高い高密度都市のなかで、多くの出会いが生まれています。

◆文化の多様性

伝統から最先端の流行、ハイカルチャーからサブカルチャーまで、様々な文化拠点が、新しい文化が続々と生まれています。



はらはら、ときどきをおとどけします。
豊島区のいまを彩る 多様な文化

マンガ
アニメ

アニメの聖地として注目

ラ・フォル・ジュルネ、アートオリンピア、
東京アニメアワードフェスティバル等、
国際イベントが続々と集結。

地域に息づく文化



伝統
芸能

日本の伝統文化を表現する場として
各所で様々なイベントを開催

地域が育む文化

演劇が根付いたまち

演劇

池袋モンパルナスがあった
アートのまち、音楽のまち



東アジア文化都市を通じて文化芸術の浸透を

「国際アート・カルチャー都市」という壮大な構想の実現に、豊島区は大きな一歩を踏み出そうとしています。構想の核となる劇場群<Hareza池袋>は、人々が集い、賑わい、創造・発信する新たな「まちづくり」の土台であり、豊かな発想と行動力に裏打ちされた、重量感溢れる試みであります。

「東アジア文化都市2019」は、この「試み」のスタートを飾るに相応しい、正に「国際都市」実現への大きな起爆剤となり得る事業であります。

「豊島区民全員参加」が、事業目標の一番に挙げられております。私も豊島区民の一人として、成功に向け背水の陣で臨む覚悟でおりますことを申し上げ、「基本計画」に寄せる言葉と致します。

豊島区名誉区民
重要無形文化財 狂言 保持者(人間国宝)
日本芸術院会員
文化功労者
(公社)日本芸能実演家団体協議会 会長

野村 萬



「ひと」が主役のまちづくり

2015年の新庁舎整備を契機に、「ひと」が主役のまちづくりが池袋駅周辺地域を中心に連鎖的に広がり、国際アート・カルチャー都市としてダイナミックに変貌を遂げようとしています。

豊島区のパワーの源泉は、国籍も年齢も職業も様々ないろいろな人が行き交うストリート性にあると感じます。21世紀の都市デザインのテーマはwalkable。歩いて楽しい要素がたくさんあることです。20世紀には、そういうストリート性、多様性に対して、ごちゃごちゃしているとか、あぶないとか、ネガティブな形容詞が使われていました。しかし、まったく時代は逆転したのです。そういう大逆転の街の代表が池袋なのです。

東アジア文化都市2019豊島では、コンパクトで利便性の高い都市としてのまちの魅力を最大限に発揮するとともに、まちなかを歩いて人々が出会い、文化を通じた交流がさらに深まることを期待しています。

豊島区都市政策顧問

建築家 隈研吾



©J.C.Carbonne

国際アート・カルチャー構想の実現に向けて

豊島区は多様性に富む豊かな文化を育んできました。そうした豊島区特有の文化資源を活かし、「文化の力」で日本の推進力となるまち、それが「国際アート・カルチャー都市としま」です。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、さらにその先の文化レガシーの継承も視野に入れ、戦略的な取組みを進めていきます。多彩な文化プログラムの展開、世界に向けた発信力強化、そして人間優先の都市空間の創出を図り、都市構想の基本理念である「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を目指します。

国際アート・カルチャー都市構想を実現する「3本の矢」

国際アート・カルチャー都市
プロデューサー

11名



文化芸術の最前線で活躍する11名のプロデューサーの斬新な発想を反映し、2015年3月、都市構想を策定しました。

国際アート・カルチャー都市
懇話会

30名



元文化庁長官の近藤誠一氏を会長に、文化芸術のトップリーダーをはじめとする委員からの答申を受け、2016年6月、都市構想を具体化するための実現戦略を策定しました。

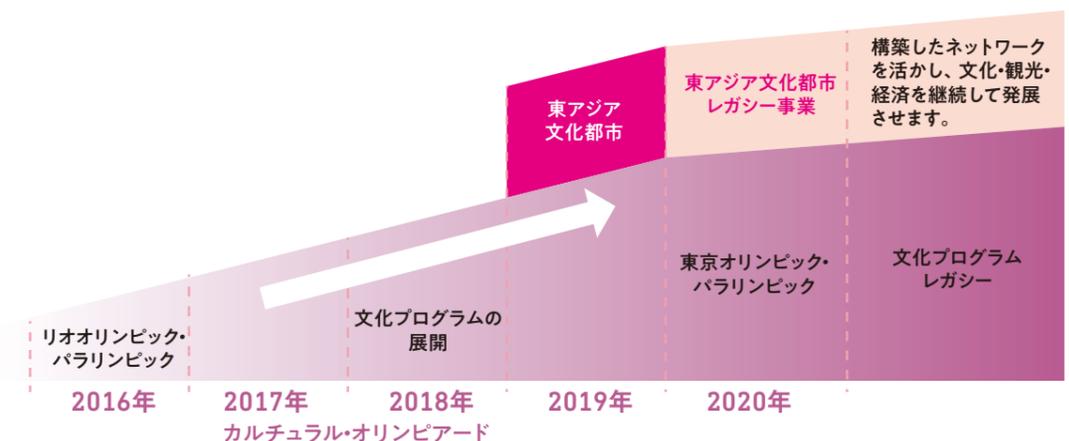
国際アート・カルチャー
特命大使

1390名



都市構想に賛同し、国際アート・カルチャーの裾野を広げる活動の担い手です。

平成30年6月末現在



実現に向けたロードマップ



東アジア文化都市を契機に3つの戦略をさらに推進します。

国際アート・カルチャー都市「としま」

いよいよ「東アジア文化都市」年がやってきます。私たちの豊島区が掲げたアートとカルチャーによるまちづくりは着実に芽を吹き根付こうとしています。最初は何のことかわからなかった区民の皆さんも旧豊島公会堂のところに姿を現した新ホールを含む「ハレザ池袋」の建設現場や池袋西口公園の「劇場公園」への改修プランをご覧になってびっくりされていることでしょう。すでに完成した豊島区役所や南池袋公園、さらに現在計画中の造幣局跡地の防災公園や新型BRTによる移動交通システムは全てアートやカルチャーの表現の空間となります。区民の皆さんからなる「アート・カルチャー特命大使」はこの運動のよき理解者で大切な推進役です。都市政策の中核にアートとカルチャーをすえた街は世界にも珍しく、その成果の第一弾が「東アジア文化都市」なのです。急速に変化する東アジアで大いに「文化都市としま」を発信し世界のお客様を豊島区にお迎えしようではありませんか。豊島区の未来に向かって!

(株)キョードー・ファクトリー代表取締役
国際アート・カルチャー都市チーフプロデューサー

前田三郎



日本、中国、韓国3か国、文化による交流と発展

「東アジア文化都市」は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するものです。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としています。

横浜市(2014年)、新潟市(2015年)、奈良市(2016年)、
京都市(2017年)、金沢市(2018年)に続き、
豊島区が6番目の国内都市に決定しました。

	開催都市					候補都市
	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(H31)
日本	 横浜市	 新潟市	 奈良市	 京都市	 金沢市	 豊島区
中国	泉州市	青島市	寧波市	長沙市	ハルビン市	未定
韓国	光州広域市	清州市	済州特別自治道	大邱広域市	釜山広域市	仁川広域市

※2018年に開催される日中韓文化大臣会合において、中国及び韓国から提案される都市とともに、正式に決定される予定です。



都市と文化が担うもの

日本のように成熟した国において、これから重要な役割を果たすのは、都市と文化だ。

グローバル化や科学技術の急速な進歩の圧力の前で、国民がこころ豊かな人生を送れる場を提供し、政治や経済の建前や短期的の利害を超えて諸外国と交流する力を与えることができるのも文化だ。

しかしその力を安全保障やマクロ経済政策などに集中せざるを得ない国家には、十分な文化政策を行うゆとりがない。

そのような状況の中で、私も出席した日中韓文化大臣会合で日本が提案し、合意された東アジア文化都市構想の果たす役割はこの上なく重要だ。そして豊島区が、東京オリンピック・パラリンピックの前年である2019年の、東アジア文化都市候補都市に選ばれた意義は大きい。高野区長の指揮の下、国際アート・カルチャー都市懇話会を開催するなど、目覚ましい文化振興策、国際交流策を進めているからだ。

これを機に豊島区が今後の東アジア交流の拠点となることを祈って止まない。



元文化庁長官
豊島区国際アート・カルチャー都市懇話会会長

近藤誠一

東アジアの平和構築に貢献して ノーベル平和賞を目指せ

「国と国」の政治的な関係が困難な今日においては、文化による交流、そして、「都市と都市」および「市民と市民」との交流をより積極的に推進していくことが必要です。

「東アジア文化都市」の目的は、「東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進」ですが、そのことは東アジア3か国の平和的な関係の構築にも大きく寄与するでしょう。それは日中韓の3か国にとって未来へ向けての大きな希望となりますので、十分に「ノーベル平和賞」の受賞に値する偉業となると信じています。



三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)芸術・文化政策センター長/主席研究員
豊島区国際アート・カルチャー都市懇話会副会長

太下義之

2019年に完成する多くの施設等を
「東アジア文化都市2019豊島開催記念事業」
 とし、未来の世代に伝えるレガシーとします。

1 誰もが主役になれる劇場都市のシンボル・Hareza(ハレザ)池袋

「国際アート・カルチャー都市構想」をけん引するシンボルプロジェクト。
 8つの劇場が圧倒的なにぎわいを生み出します。

- ・2019年秋 芸術文化劇場、としま区民センターオープン予定
- ・2020年夏 Hareza(ハレザ)池袋グランドオープン予定



2 四季を通して個性あるイベントを開催・池袋駅周辺4公園

公園がまちを変える。歩いて楽しい回遊都市。4公園合計30,000㎡の劇場空間。それぞれの特色を活かし、土日祝日には誰もが参加できる多彩なイベントを随時開催します。

南池袋公園 2016年4月リニューアル



池袋西口公園 2019年秋リニューアル予定



中池袋公園 2019年秋リニューアル予定



造幣局地区防災公園(仮称) 2020年春オープン予定

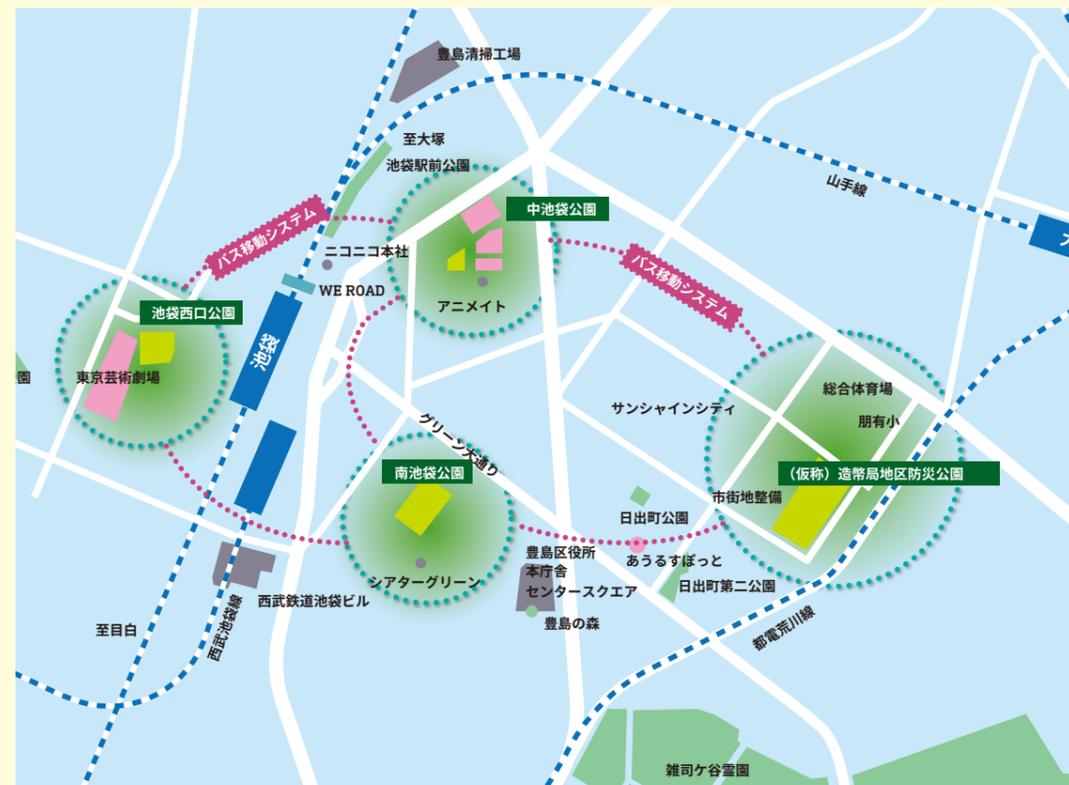


3 池袋の中心を回遊する環境と観光のシンボル・真っ赤な電気バス

池袋副都心内を安全に快適に移動できる新たな移動サービスとして、環境にやさしい電気バスを導入します。デザイナーの水戸岡鋭治氏が車両、バス停、制服等をトータルデザイン。4つの公園を中心に、四季を感じながらまちを回遊します。



・2019年運行開始予定



4 色で表現したアート空間へ再生・WE ROAD (ウイロード)

美術作家植田志保氏が池袋東西まちづくりの架け橋(ウイロード)の再生に挑戦。東アジア文化都市開催期間中は公開描画を行い、通路内の壁や天井を色で表現したアートな空間を造りだします。

・2019年10月竣工予定



5 (仮称)マンガの聖地としまミュージアム・トキワ荘の再現

手塚治虫をはじめ、多くのマンガ家が切磋琢磨した「マンガの聖地としま」を地域へ、世界へ発信する拠点となる(仮称)マンガの聖地としまミュージアム(トキワ荘の再現施設)を南長崎花咲公園に開設します。

・2020年3月オープン予定



全体統括 挨拶

「多様な未来に開かれた躍動する街へ」 —生命力溢れる文化の力を解き放とう—

豊島区が2019年第6回東アジア文化都市に選定されました。これは、日本・中国・韓国の東アジア各都市がそれぞれ歴史と文化に根ざした個性を発揮し、相互理解と友好を深めるための国際プロジェクトです。武蔵野台地に位置する豊島区は、明治後半から大正にかけて次々と鉄道が開通し、交通の要所として発展しました。ほぼ同じ頃、多くの学校が開校し、豊島区は教育と文化の街へと成長して行きます。戦前には芸術家たちが集まり、池袋モンパルナスの文化を生み出します。

しかし最大の活力は人々の暮らしから生まれてきました。豊島区の特徴は街の活動が人々の日々の生活と密接に結びついているところにあります。街とそこに住む人々が培ってきた多彩で様々な文化的活力が豊島の最大の魅力です。様々な文化的背景を持つ諸外国の人々を惹き付ける包容力もそこから生まれるのでしょう。それぞれの地域に伝統的な祭りがあり、新しい祭りも生まれています。古くからの商店街にも最先端ファッションストリートにも、人々の暮らしの息づかいが感じられる街。それが豊島です。

2019年には池袋駅の東西に新しい劇場や広場がオープンし、東アジア文化都市2019豊島が新たな顔を見せてくれることでしょう。それは20世紀の初頭、戦後の復興・成長期に継ぐ第3の転形期、21世紀の豊島のはじまりを告げるファンファーレです。力を合わせて東アジア文化都市事業を成功させ、豊島区をアジアに輝かせましょう。



東アジア文化都市2019豊島準備委員会 全体統括

吉岡 知哉

1953年東京生まれ。前立教大学総長（2010年から2018年）1976年に東京大学法学部第3類（政治コース）を卒業、1980年立教大学法学部助手に着任、1981年同講師、1983年同助教授、1990年同教授。2002年から2006年まで法学部長、2010年から2018年まで立教大学総長を2期（第19代・第20代）務める。2018年立教大学を定年退職。

一般社団法人日本私立大学連盟副会長、日本私立大学団体連合会副会長、公益財団法人大学基準協会常務理事、就職問題懇談会座長（文部科学省）、大学設置・学校法人審議会会長（文部科学省）、中央教育審議会大学分科会臨時委員（文部科学省）等を歴任。

専門は欧州政治思想史。主な研究領域は、近代政治思想、特に18世紀フランスの思想家ジャン=ジャック・ルソーについての研究。主著『ジャン=ジャック・ルソー論』東京大学出版会、1988年（渋沢・クロード賞受賞）。

シンボルロゴ

東アジア文化都市では毎年、日本・中国・韓国のそれぞれの開催都市が、シンボルとなるロゴを作成しています。東アジア文化都市2019豊島では、開催に向け、全員参加による一体感の醸成を図るため、一般の方々に3つの候補から1つを選び投票していただく、アンケート投票を実施し、●万人以上の方に投票していただき、決定しました。



東アジア 文化都市 Culture City of East Asia 2019 Toshima 2019豊島

【デザインコンセプト】

TOSHIMAの「T」をモチーフに3つの国の結束と躍動を表現しました。色とりどりの線の色は、多彩な文化、芸術、国籍などを表し、日本伝統の工芸品でもある組紐のような結び目は、絆や結束を表しています。同時に、結び目を中心にして伸びていく三本線は、エネルギー溢れる活き活きとした生命力を表現しています。

コンセプト「はらはら、どきどき、文化がいっぱい。」

「文化がいっぱい」には多文化という意味もあり、「はらはら」と「どきどき」の2つを合わせることで、よりわくわくする感じが出ます。東アジア文化都市2019豊島がすべての人々に楽しく、わくわくするものになるようお願い、コンセプトを考えました。

7つの目標

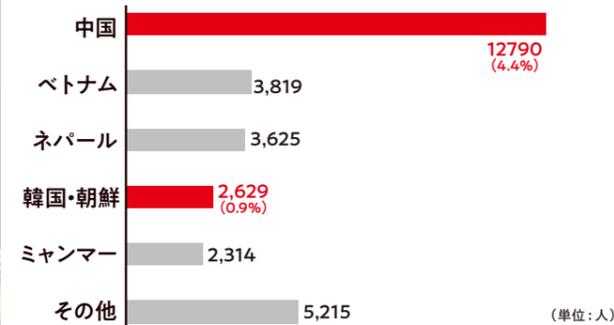
東アジア文化都市2019豊島では7つの目標を掲げ、この実現を目指していきます。

1 豊島区民の全員参加

豊島区民全員が鑑賞者・つくり手として東アジア文化都市2019豊島に参加いただけることを目指します。特に「文化事業の鑑賞や参加経験が少ない人々」、「豊島区の将来を担う若い世代の人々」、「豊島区に多数居住している中韓出身・中韓国籍の人々」を強く意識し、事業を展開します。



特命大使総会で東アジア文化都市事業説明



外国人住民の国籍別内訳 (平成30年7月5日現在)
中国、韓国・朝鮮の括弧書きは豊島区総人口 290,024 人に占める割合

2 豊島区の文化の再認識を通じたシビックプライドの醸成

豊島区は、池袋、巣鴨、駒込、雑司が谷、目白など、様々な特徴を持ったエリアによって構成されています。東アジア文化都市2019豊島では、このようなエリアに存在する豊島区の文化を再認識できるような文化事業を展開します。文化の再認識を通して区在住者・関係者の誇り(シビックプライド)が醸成されることを期待しています。



東アジア文化都市事業についての管理職研修



東アジア文化都市国内決定の区民報告会

3 国内外の人々の来訪による豊島区のブランディング

東アジア文化都市2019豊島には豊島区民だけではなく、国内外の多くの人々を迎え入れることを想定しています。これを通じて、「国際アート・カルチャー都市としま」としてのブランド価値を高めることを目指します。

4 各種施策横断によるオール豊島としての事業展開

東アジア文化都市2019豊島は単なる文化事業にとどまりません。観光・まちづくり・産業・子育て・教育・健康・福祉など様々な分野の政策の視点を盛り込みオールとしまとして事業を展開します。東アジア文化都市2019豊島開催後も文化の視点をそれぞれの政策盛り込んでいけるような変革を目指します。

5 豊島区の未来を担う人材の育成

東アジア文化都市2019豊島は豊島区として大きなチャレンジとなる事業です。この準備・実現のプロセスに豊島区内外の文化に留まらない様々な才能を持った人々を巻き込むことで、豊島区の未来を担う人材の育成を図ります。



6 東アジア文化都市事業の継続性のあるモデルの提示

豊島区は東アジア文化都市がその理念に基づいて、今後も継続・発展していけるような魅力的な開催の在り方(モデル)を提示します。

7 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運の醸成及びリーダーシップの発揮

東京都では2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が控えています。また、これに向けて各地で文化プログラムが展開されます。豊島区では東京都と十分に連携を取りながら、東アジア文化都市をとらして、いち早くこの機運を醸成するとともに、文化プログラムにおけるリーダーシップを発揮します。



事業の構造

東アジア文化都市2019豊島では「舞台芸術」、「マンガ・アニメ」、「祭り・芸能」の3つを柱とし、ディレクター事業、パートナーシップ事業、フレンドシップ事業などを展開します。

◆ディレクター事業

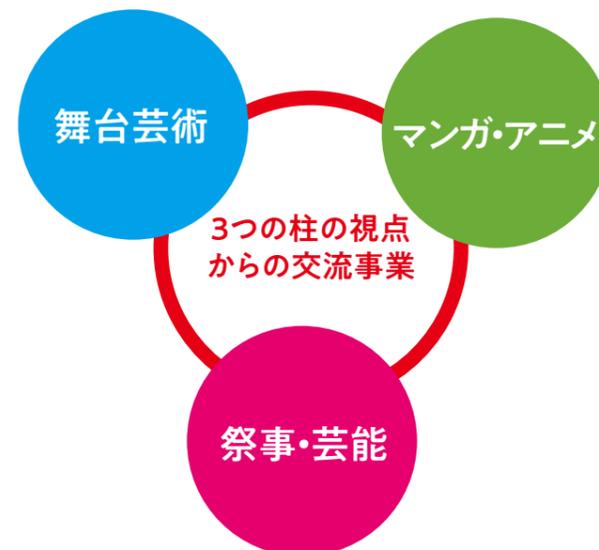
「舞台芸術」、「マンガ・アニメ」部門では総合ディレクター・事業ディレクターを置き、開幕式典・閉幕式典を実施するとともに、先に掲げた「7つの目標」の実現に向け、魅力的な事業(新規事業・青少年文化交流事業・各種シンポジウム等)を展開します。

◆パートナーシップ事業

豊島区や(公財)としま未来文化財団が主催、共催、または補助等を行う事業(原則既存事業、一部新規事業)のうち東アジア文化都市2019豊島や国際アート・カルチャー都市の趣旨に該当するものについて、東アジアとの交流の観点から拡充し「国際アート・カルチャー都市推進事業」として展開するとともに、民間団体が実施する東アジア文化都市2019豊島の目標に合致する取組みに対して公募・助成を行います。パートナーシップ事業は東アジア2019豊島開催期間中に実施されるものを対象に、募集を行っていく予定です。

◆フレンドシップ事業

東アジア文化都市2019豊島や国際アート・カルチャー都市構想実現戦略の趣旨に該当する事業について、広報面で連携を行います。採択された事業は東アジア文化都市2019豊島Webサイトに掲載されるとともに、各種広報物における東アジア文化都市2019豊島のロゴの提供や、そのほか各種広報ツール(のぼり等)の貸出を行う予定です。



オールとしまで盛り上げよう

日中韓交流の視点を取り入れ区民の全員参加で展開します

区民全員が作り手・鑑賞者として参加できるよう、将来を担う若い世代、区内に居住している中韓の方々を意識した事業の公募や広報連携を行います。



総合ディレクター・事業ディレクター

舞台芸術部門／マンガ・アニメ部門／祭事・芸能部門

全体総括 吉岡知哉

〈舞台芸術部門〉

総合ディレクター

宮城 聡

事業ディレクター

多田淳之介、石神夏希

〈マンガ・アニメ部門〉

総合ディレクター

古川タク

事業ディレクター

土居伸彰、山内康裕

〈祭事・芸能部門〉

部門責任者

東澤 昭

事業推進担当

としま未来文化財団

◆舞台芸術部門 総合ディレクター

どうして「東アジア文化都市」?

「隣人」といかに共存共栄するか。

これはかねてより人類に課せられた宿題と言ってもいいでしょう。

人間というのは面白いもので、自分とは何から何まで異なっている他者と出会う際には、自分と比べることもできないので、対抗意識もわきません。ところがかなりの部分で共通している「隣人」に対しては、共有するものが多いからこそ違っている部分が気になり、対抗意識が生じ、時にコンプレックスを感じます。そのために逆に威張ったり、謝りたくても謝れなくなったりもします。

でもこの緊張関係は、文化芸術においてはプラスに作用します。なぜなら文化芸術の競い合いには「敗者」がないからです。わずかな差異をクローズアップすることでお互いの文化芸術が洗練されてゆきます。アジアの輝かしい文化遺産群がそれを証明しています。

文化という窓を通して隣人と向き合う。

舞台芸術はまさにそのための土俵です。「違うから面白いんだ!」という発見のためのフラスコです。ひとつのモノサシで全員を測る競技ではなく、どんどんモノサシを増やしてゆくゲームです。この愉快的ゲームに参加する住民が増えれば増えるほど、その地域は寛容で、住みやすく、そして活気ある場所になるでしょう。

すでに豊島区はその方向に向かって歩を進めていますね。2019年は、その歩みが、誰の目にも見える形をつくる年となることでしょう。



撮影:新良太

みやきさとし
宮城 聡

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京芸術祭総合ディレクター。東京大学で小田嶋雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『女王メデア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2006年～2017年APAF-アジア舞台芸術祭(現アジア舞台芸術人材育成部門)プロデューサー。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。舞台芸術部門事業ディレクター

事業ディレクター

ただじんのすけ
多田淳之介

撮影:平岩享

1976年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。APAF-アジア舞台芸術人材育成部門ディレクター。東京芸術祭プランニングチームメンバー。高松市アートディレクター。四国学院大学非常勤講師。古典、現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで、現代の当事者性をフォーカスしアクチュアルな作品を立ち上げる。全国の文化施設、教育機関で演劇を専門としない人との創作、ワークショップも積極的に行い、演劇の持つ対話力・協働力を広く伝える。韓国、東南アジアとの海外共同製作も多数。2014年韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。

いしがみなつき
石神 夏希

撮影:菅原康太

劇作家。NPO法人 場所と物語 理事長。The CAVE 共同創業者・共同ディレクター。1999年よりペビン結構設計を中心に活動。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。近年は横浜を拠点に国内各地や海外に滞在し、都市やコミュニティを素材にしたスペースシフィックな演劇やアートプロジェクトを手がける。また『Sensuous City [官能都市]』(HOME'S総研)をはじめとする調査研究、東京都およびアーツカウンシル東京との共催事業『東京ステイ』ディレクター、遊休不動産を活用したクリエイティブ拠点『The CAVE』の立ち上げなど、都市に関するさまざまなプロジェクトに携わる。

◆マンガ・アニメ部門 総合ディレクター 文化が交流するということ

1980年に手塚治虫を団長として「青年の船」にて初めて上海美術電影という国営のアニメーションスタジオをアニメーション仲間たちで訪れた。まだ当時のJALのCAさんたちはタラップの下に降りられなかった時代だ。「芸術はいいですね、私たちの分まで一所懸命交流して来て下さいね」彼女たちの本心だった。文化大革命以前にそのスタジオで作られた素晴らしい水墨画アニメーションを初めて見た時の衝撃は今も忘れられない。数年後、こんどはマンガ家仲間と北京を訪れた。マンガを懸命に探したが、人民日報の政治漫画か連環画の本を見つけただけだった。そのかわり当時まだ残っていた精巧に作られたブリキやセルロイド製の玩具をみんなで買い込んだ。

1997年ソウルで初めてアニメーションエキスポという国際的なフェスティバルが催された。牽引役はアニメーション好きな二人の若者、彼らがパイオニアだった。

そして時は過ぎ、2019年の春、豊島が座を提供しての東アジア3都市の未来に繋がる、まったく新しいタイプの文化交流事業がスタートする。ワクワクする企画が現在進行中です。みなさん、是非あそびに来て下さいね。

近頃なにかと東アジアに関する話題が多くなってきた。しかし我々庶民感覚から言わせてもらおうと、昨日まであんなに親しかった近所の友人たちとのおつきあいがなんだかよそよそしい。ギクシャクまではいかないものの、どうもしくりいってない。だからマンガ、だからアニメでひとつ、という話ではない。



ふるかわ 古川 タク

1941年三重県出身。アニメーション作家、イラストレーター、絵本作家。日本アニメーション協会会長。文化庁メディア芸術実行委員会運営委員。手塚治虫に憧れて、三重県での高校時代から漫画を描き始める。大阪外国語大学在学中にアニメーションに出会い、卒業後、久里洋二実験漫画工房に入社。1970年に独立して、タンク漫画BOXを設立する。フリーのひとコママンガ家、イラストレーター、アニメーション作家として活動。NHK「みんなのうた」やテレビCMのアニメーションも多数手がける。アヌシー国際アニメーション映画祭審査員特別賞、第25回文藝春秋漫画賞、文化庁メディア芸術祭優秀賞など受賞。東京アニメアワードフェスティバル2017にて、アニメ功労部門顕彰を受ける。2004年紫綬褒章、2012年旭日小綬章を受章。

事業ディレクター

と い のぶ あき 土居 伸彰



1981年東京生まれ。株式会社ニューディアー代表、新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバル・ディレクター。ロシアの作家ユリー・ノルシュテインを中心とした非商業・インディペンデント作家の研究を行うかわら、AnimationsやCALFなど作家との共同での活動や、「GEORAMA」をはじめとする各種上映イベントの企画、『ユリイカ』等への執筆などを通じて、世界のアニメーション作品を広く紹介する活動にも積極的に関わる。2015年にニューディアーを立ち上げ、海外作品の配給を本格的にスタート。国際アニメーション映画祭での日本アニメーション特集キュレーターや審査員としての経験も多い。著書に『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論』、『21世紀のアニメーションがわかる本』（いずれもフィルムアート社）など。

やまうち やすひろ 山内 康裕



1979年東京生まれ。マンガナイト/レインボーボード合同会社代表。「さいとう・たかを劇画文化財団」理事、「国際文化都市整備機構」監事。2009年、マンガを介したコミュニケーションを生み出すユニット「マンガナイト」を結成し代表を務める。イベント・ワークショップ・デザイン・執筆・選書を手がける。2010年にレインボーボード合同会社を設立し、「マンガ」を軸に施設・展示・販促・商品等のコンテンツプロデュース・キュレーション・プランニング業務等を提供している。主な実績は「立川まんがばーく」「東京ワンピースタワー」「池袋シネマチ祭2014」「日本財団これも学習マンガだ!」「アニメorange展」等。共著に『『ONE PIECE』に学ぶ最強ビジネスチームの作り方(集英社)』、『人生と勉強に効く学べるマンガ100冊(文藝春秋)』等。

◆祭事・芸能部門 責任者 受け継がれるもの／生まれ出るもの

文化について考えるとき、もっとも重要なのは、それがいかにその土地や場所の持つ固有の歴史や記憶として人々のなかに共有されているか、地域のアイデンティティと分かちがたく結びついているか、ということであると言われます。

かつて江戸時代の豊島区地域は、当初ほぼ全域が純農村地帯であったと考えられていますが、その後、一部の街道筋や寺社門前地域で町場化が進み、さらに明治期以降、関東大震災や戦争という惨禍を乗り越え、交通網の発展とともに急激な人口流入と増加を経験するなかで、多様性に富む豊かな文化資源を生み出してきました。

とりわけ祭事や郷土芸能は、五穀豊穡や病気平癒など、日々の平穏を願う人々の暮らしのなかに脈々と受け継がれ、地域ごとに独自の発展を遂げてきました。同時に私たちは、それらが地域性を超えて広く共通するものであることを、日本各地や世界各国の民俗芸能を見、触れ合うことによって知ることができます。東アジア文化都市事業の「祭事・芸能部門」では、このように地域に深く根差した文化とともに、幾多の時代を経るなかで洗練を極め、異なる世界との出会いや融合によって生まれた文化芸術の新たな側面にも触れていただきたいと思います。

ローカルな地域性に根差した独自の文化が、グローバルな普遍性を持って世界とつながり、古典的な芸術が現代における最先端の文化とダイナミックに交差し、融合する、その奇跡のような瞬間に皆さんとともに立ち会えることを心から楽しみにしています。

公益財団法人としま未来文化財団 常務理事

と う さ わ あ き ら 東澤 昭



公益財団法人としま未来文化財団の概要

1985年4月、豊島区における区民文化施設・スポーツ施設等の管理運営や区民文化活動の振興発展を目的として設立された。当初は「財団法人コミュニティ振興公社」という名称であったが、2005年4月、「財団法人街づくり公社」を統合し、文化と都市再生をキーワードとする「財団法人としま未来文化財団」が誕生。2011年4月に公益財団法人に移行した。その発足以来、一貫して豊島区における文化政策推進の一翼を担い、2008年度における「文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)」受賞に貢献するとともに、区が標榜する「国際アート・カルチャー都市」の実現に向け、多彩な文化芸術事業等を展開している。2016年度には、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりへの功績により、運営を担う区立劇場「あうるすぽっと」が、一般財団法人地域創造の「地域創造大賞(総務大臣賞)」を受賞した。

東アジア文化都市2019都市では新規事業だけでなく、これまでまち全体で展開されてきた祝祭性溢れる継続事業も一体となって1年間を盛り上げます。

◆舞台芸術分野

フェスティバル/トーキョー(東京芸術祭)

日本最大級の国際舞台芸術祭。2009年の誕生から、毎年秋、池袋エリアに集積する文化拠点を中心に区内各所でプログラムを展開しています。



撮影:Kazuyuki Matsumoto (左) Takashi Fujikawa (右)

池袋演劇祭(東京芸術祭)

区内・近隣の劇場やホールで毎年9月、約1か月間にわたり開催される若手劇団の登竜門的演劇祭。1989年より地域密着型の演劇祭として始まり、2018年で30回目を迎えます。



東京芸術祭

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭。東京の芸術文化の魅力を分かり易く見せると同時に東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。



APAF-アジア舞台芸術人材育成部門(東京芸術祭)

2002年に開始された「アジア舞台芸術祭」を前身に、2017年から東京芸術祭の1部門となった人材育成のプログラムです。アジアの舞台芸術を通じた相互理解と文化交流の促進、アーティストの相互交流による舞台芸術の創造と水準向上、優れた人材と作品の発掘と、アジアにおける芸術・文化の振興に貢献することを目指しています。



(C) APAF2017
2017年国際共同クレーション公演『Kiss Kiss Bang Bang 2.0』(左)、国際共同制作ワークショップ『Beautiful Trauma』(右)

子どもに見せたい舞台シリーズ(としまアート夏まつり)

子どもたちに舞台の楽しさを知ってもらいたい、劇場を身近に感じてほしいとの思いから始まりました。0歳から入場でき、2歳以下までは保護者の膝の上で無料鑑賞することができ、親子で身近に、気軽に、本格的な舞台を楽しめます。



撮影:奥野若野(左)引地信彦(右)

◆マンガ・アニメ分野

東京アニメアワードフェスティバル

「東京がアニメーションのハブになる」を合言葉に、新たな人材の発掘・育成、アニメーション文化と産業の振興に寄与すること、及び東京の魅力を発信し、観光振興に資することを目的に、2014年より開催されている国際アニメーション映画祭。

主催：東京アニメアワードフェスティバル実行委員会／一般社団法人日本動画協会



池袋ハロウィンコスプレフェス

池袋東口エリア全体を使ったコスプレイベント。コスプレヤーの参加者も年々増加し、2日間の開催期間で1万人以上のコスプレヤーがイベントを楽しんでおり、5万人を超えるイベント来場者数を動員しています。皆様が訪れたい安全・安心なまちを舞台に国際アート・カルチャー都市の基本方針である「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を体現するイベントとなっています。



提供：池袋ハロウィンコスプレフェス 2017/niconico（左）池袋ハロウィンコスプレフェス 2015（豊島区撮影）（右）

アニメイトガールズフェスティバル

数あるアニメ・マンガ・ゲーム・声優関連イベントのなかで、女性向けコンテンツを一堂に集めた祭典としては世界最大級フェスティバル。主催：アニメイトガールズフェスティバル実行委員会



©yura ©AGF2018

◆祭事・芸能分野

大田楽 いけぶくろ絵巻(東京芸術祭)

色とりどりの花を飾った笠や五色の装束を身につけた田楽法師たちが、いにしへの旋律と軽やかなリズムに躍動し、絵巻の世界へ巻き込む野外パフォーマンス。



撮影：前澤秀登

としま能の会

無形文化遺産である能や狂言を区民により身近なものとして親しんでいただくため実施。年々観客層も若い世代が増え、留学生や訪日外国人にも広がりを見せています。



撮影：青木信二

民俗芸能inとしま

脈々と受け継がれている貴重な民俗芸能・風俗習慣を豊島区は世代を越えて発信し続けています。誰でも気軽に区内や各地の郷土芸能を鑑賞できます。



撮影：青木司

ふくろ祭り

豊島区最大規模の秋のお祭り。前半(9月)は「御輿の祭典」。地元の御輿13基のほか、近隣から大みこしが5基集結し、池袋中が人と御輿で埋まります。後半(10月)は「踊りの祭典」。初日は、「踊りの祭典/東京よさこい前夜祭」として、フラダンス、極真の空手演舞、江戸芸かっぽれ、佐渡おけさ、池袋やっさ、沖縄エイサー、東京音頭など音楽と踊りが満載です。



撮影：ふくろ祭り協議会

東京よさこい

全国から集まる100を超えるチームが、区内8会場で熱気にあふれた踊りを披露し、街全体がよさこいの熱い舞台となります。本場・高知のよさこいをベースに、独自のアレンジを加えた勇壮かつ優雅な踊りと、工夫を凝らした華やかな衣装が見どころです。



撮影：ふくろ祭り協議会



東京大塚阿波おどり

来場者数は、15万人、出場連数は19連、踊り手は1,000人!高円寺の阿波おどりと並ぶ規模の都内屈指の阿波踊り。1000人以上の「踊り手」と「お囃子」が参加し、鳴り物の響きと「ヤッター」「ヤッター!」の掛け声で盛り上がります。趣向を凝らした各連の踊りを、是非お楽しみください。



撮影：新幹連（左）

きしもじんおえしきまんとうねりくよう 雑司ヶ谷鬼子母神御会式万灯練供養 (豊島区指定無形文化財)

雑司ヶ谷鬼子母神堂で行われる行事。地元の講(こう)が自慢の法被(はっぴ)を身にまとい、白い和紙の花をすだれ桜に模した高さ3~4メートルの万灯を掲げ、纏(まとい)を振り、独特なリズムで団扇太鼓(うちわだいこ)を叩きながら練り歩きます。



御会式(おえしき)の様子(左)、雑司ヶ谷鬼子母神堂(右)

◆音楽・アート分野

東京フラフェスタin池袋

池袋の街全体でフラの風を感じられる日本最大級のイベント。年々、参加者は増加し、180チーム、4000人以上がフラステージを盛り上げます。本場ハワイの人気講師による特別ステージやハワイアンバンドの演奏、模擬店・物産展など盛りだくさんです。



撮影：東京フラフェスタin池袋実行委員会

池袋ジャズフェスティバル

一般公募でアマチュアバンドが参加できるストリート・フェスティバル。2日間に渡って、池袋西口周辺の複数会場でジャズ、ファンク、ポップスなど様々なジャンルのストリートライブが行われます。2018年には15周年目の開催を迎え、2,000人近い演奏者が参加されました。



撮影：池袋ジャズフェスティバル実行委員会

池袋フォーク&カントリーフェスティバル

池袋西口公園で開催される初夏の音楽イベントで、1日目カントリーデー、2日目フォークデーと、それぞれ違った楽しみ方ができます。アマチュアバンドによる演奏の他、プロのミュージシャンの友情出演もあり、会場をより一層盛り上げています。



撮影：池袋フォーク & カントリーフェスティバル実行委員会

新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館

池袋の街は、特に1930年代半ばから1940年代にかけて、アトリエ村に住む美術家たち、詩人、新興キネマの俳優などの映画人、多くの学生たちのたまり場でした。そこは創造への意欲をはぐくむ土壌であり、詩人の小熊秀雄はそうした雰囲気を「池袋モンパルナス」と称しました。この土地の記憶・風土を現代に継承していくことを目的に、「まちのどこもが美術館」をコンセプトに開催しています。



撮影：新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館実行委員会

アートオリンピア

世界の才能あるアーティストを発掘、またその活動支援を目的としたアートの国際公募展。区庁舎を会場に公開審査、受賞作品展を隔年で開催しており、2019年にも開催されます。



パラアートTOKYO 国際交流展

「パラアート」(障害者の幅広い芸術活動とその作品)の認識を広く国内外に発信すると共に、障害者の心と才能の国際交流を意図した、日・中・韓を中心としたアジア諸国の障害者の優れた作品が集う展覧会。



ラ・フォル・ジュルネTOKYO

世界最大級のクラシック音楽の祭典。2018年より池袋でも開催され、国内外の著名なアーティストによる一流の演奏が街中で繰り広げられます。



© 大杉隼平



スケジュール

東アジア文化都市2019豊島では2月1日の開幕式典を皮切りとした5月上旬までの期間と、8月中旬から11月24日の閉幕式典までの期間のそれぞれをコア期間として位置づけています。これらの期間に、ディレクター事業やパートナーシップ事業(国際アート・カルチャー都市推進事業、公募事業)などを集中的に展開していきます。

2018年11月には記念シンポジウムを開催し、東アジア文化都市2019豊島の機運醸成を図ります。

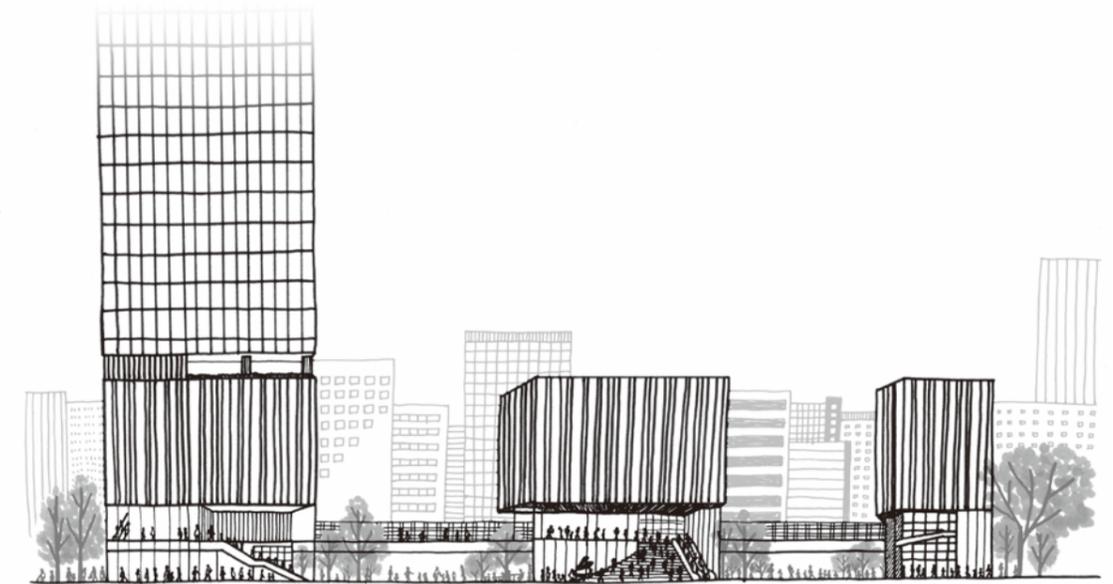
開幕式典・閉幕式典

開幕式典は2019年2月1日(金)に東京芸術劇場コンサートホールにて、閉幕式典は2019年11月24日(日)にHareza池袋 芸術文化劇場(2019年秋オープン)にて実施します。

開幕式典

日程:2019年2月1日(金)

会場:東京芸術劇場 コンサートホール(収容:1,999名)



閉幕式典

日程:2019年11月24日(日)

会場:Hareza池袋 芸術文化劇場(収容:1,300名)



2019年
2月1日
開幕式典!
東京芸術劇場
コンサートホール

2019年、年間を通じて
多様なプログラム・イ
ベントを展開!
春と夏のコア期間には
より一層の文化体験を!

Hareza池袋に
芸術文化劇場が
オープン!

2019年
11月24日
閉幕式典!
Hareza池袋
芸術文化劇場



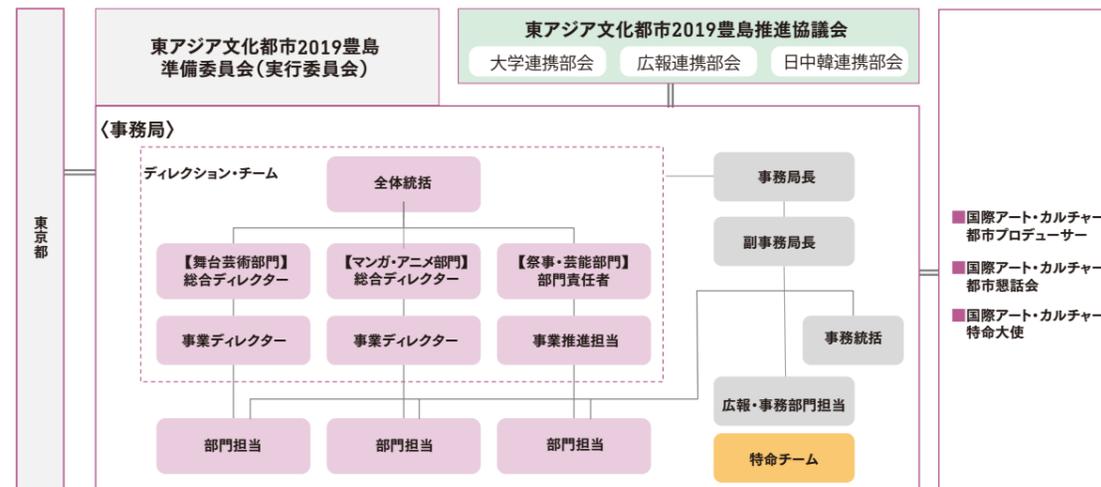
春(仮称)マンガの聖地
としまミュージアム
(トキワ荘の再現)

夏 Hareza池袋
グランドオープン

東京2020
オリンピック・パラリンピック
競技大会

実施体制

東アジア文化都市2019豊島実施体制図



◆東アジア文化都市2019豊島 準備委員会

東アジア文化都市2019豊島は2019年の開催に向けて、既に区を代表する文化、経済、観光分野等の関係者による準備委員会を立ち上げ、準備委員会事務局を設置し準備・運営を行っています。開催都市として正式決定後には、国際アート・カルチャー都市プロデューサー、懇話会正副会長、特命大使代表幹事などの方々を加えて、体制の強化を図り実行委員会へと改編する予定となっています。

◆東アジア文化都市2019豊島 推進協議会

オールとしまによる実施体制を構築するため、国際アート・カルチャー特命大使の顧問・幹事の方々を中心に、区内のあらゆる分野で中核となって活動されている方々による「東アジア文化都市2019豊島 推進協議会」を設置し、取り組んでいきます。また、推進協議会には「大学連携部会」、「広報連携部会」、「日中韓連携部会」を設置し、特定のテーマごとの事業推進も行います。

■大学連携部会

豊島区と「地域連携に関する包括協定」を締結している学習院大学、川村学園女子大学、女子栄養大学、大正大学、帝京平成大学、東京音楽大学、立教大学を中心に部会を設置し、区内大学と連携した事業を展開予定です。

■広報連携部会

鉄道事業者、百貨店、ホテル、地元企業などを中心に部会を設置し、企業と連携した広報を展開予定です。

■日中韓連携部会

豊島区内に住む中国・韓国にゆかりのある方々で構成される団体と連携し、東アジア文化都市における中国・韓国交流都市とともに、豊島区民(日本・中国・韓国)の交流を展開予定です。

■特命チーム

豊島区では全庁的な体制による取組みを図るため、全部局から若手職員を公募して30名の兼務職員からなる特命チームを設けています。

東アジア文化都市2019豊島準備委員会名簿

役割	氏名	所属等
委員長	高野 之夫	豊島区長
委員 (関係団体等)	足立 勲	豊島区商店街連合会 会長
	田中 幸一郎	豊島区町会連合会 会長
	鈴木 正美	東京商工会議所 豊島支部 会長
	近江 正典	豊島区観光協会 会長
	白井 宏一	豊島産業協会 会長
	南山 幸弘	豊島法人会 会長
	齋藤 明	豊島区 文化商工部長
全体統括	吉岡 知哉	前立教大学総長
舞台芸術部門総合ディレクター	宮城 聡	SPAC - 静岡県舞台芸術センター芸術総監督
マンガ・アニメ部門総合ディレクター	古川 タク	日本アニメーション協会 会長
祭事・芸能部門責任者	東澤 昭	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事
国際アート・カルチャー都市懇話会	近藤 誠一	豊島区国際アート・カルチャー都市懇話会 会長
	太下 義之	豊島区国際アート・カルチャー都市懇話会 副会長
オブザーバー	樋渡 幸生	東京都 生活文化局 文化振興部長
	三好 勝則	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 機構長
監事	田中 真理子	豊島区 総務部 総務課長

※2018年4月1日現在

(これまでの準備委員会開催状況)

- ・第1回準備委員会:2017年10月3日(火)
- ・第2回準備委員会:2018年2月13日(火)

事業予算

東アジア文化都市2019豊島の開催に向けた、2018年度の予算(開幕式典開催費用を含む)は以下のとおりです。

東アジア文化都市2019豊島準備委員会予算(2018年度)

(単位:千円)

収入	豊島区負担金	82,000
	豊島区貸付金(開幕式典等)	36,000
	文化庁委託費(開幕式典等)	36,000
	計	154,000
支出	ディレクション業務委託	7,100
	事務局運営費及び事業推進経費	36,700
	広報・デザイン経費	30,000
	開幕式典等(文化庁委託費)	36,000
	交流都市訪問等交通費	5,260
	翻訳、法務、税務等諸経費	2,940
	豊島区貸付金返還金	36,000
	計	154,000

※2018年2月13日現在

東アジア文化都市2019豊島準備委員会事務局

〒171-8422 東京都豊島区南池袋2-45-1 豊島区役所本庁舎 8階

TEL:03-4566-2841 FAX:03-3980-5160 contact@culturecity-toshima.com



公式WEBサイト

<https://culturecity-toshima.com>